

縛 芥川かる 市政レポート ~KIZUNA~

第5号 広報誌「絆」
芥川かおる後援会
発行日：平成 26年 4月
事務所：座間市入谷4-1881-45
発行責任者：野口利夫

平成二十六年
第一回（三月）定例会

平成20年第1回座間市議会定例会が
2月21日から3月24日までの日程で開催さ
れました。

私も市民の皆さまの代弁者として6回目
の登壇の機会をいただきました。



キヤンブ座間
返還予定地

現在、キャンプ座間返還予定地では、造成工事が着々と進められております。防衛省からは返還予定地全体の工事との関連で存置が必要となる仮囲いの撤去工事を除き、3月末の完成を予定しております。また、陸上家族宿舎の本体工事においては、1月末に契約を締結したところであり、平成25年度中に準備工事に着手する予定となつていて伺っております。まず1点目として昨年12月17日に閣議決定、公開された平成26年度から平成30年度までの中期防衛力整備計画において、一部の方面総監部の機能を見直し陸上総隊を新編し、その際、中央即応集団を廃止、その隸下部隊を陸上総隊に編入すると記述がなされ、防衛省からは陸上総隊新編については、今後詳細が分かり次第随時情報提供を行つていきたいとの説明がなされました。

また、もとからいろいろやる第4施設群の皆さん
はもとより、中央即応集団の皆さんも、すっかり
地域のコミュニティに溶け込んでいただいておりま
して、市の様々なイベントにも、この自衛隊の有志
である曹友会の皆さんがボランティアとして、率
先して地域の中で貢献していくいただいております。
そんな中で、国の防衛上の必要性から陸上総隊
司令部が仮にキャンプ座間に配置されることが明
らかになつた場合につきましては、国がおかれてい
る状況、安全保障上の状況、いわゆる国益という
ものを考えさせていただき、国民として、これを真
摯に受け止め考え方をきちんと整理した上で対
応をしていく必要があると思っております。



キャンプ座間返還予定地

(市長答弁) 議員のご指摘のとおり、民間施設での共同使用という手続きでの、数々の課題がござります。先般のキャンプ座間に関する代表幹事会の場においても防衛省とのやりとりがあり、鋭意努力をしていただきと、そして積極的に推進をしていくという言葉の中に私は強い決意を感じておりますし、大きな課題があるせにせよ、何とか平成28年春の開業というものを最短の目標として取り組みを進めて参りますし、最短で頑張つてまいります。

りたい』と発言があつたとのことであります。具体的にキャンプ座間の一部返還の条件工事の完成が大きな課題であります。ですが、病院建設においては、民間施設での共同使用は全国的に見ても例が少ないことであります。そこで、最短で平成28年春、病院開業の目標実現に向け市長としての強い決意をお聞かせください。

いつでも市民目線！

〒252-0024 座間市入谷4-1881-45
Tel:046-240-7616 Fax:046-240-7793

外派遣任務により、派遣国の人々からも

(企画財政部長答弁)

陸上自衛隊家族宿舎250世帯の方が入居された場合、個人市民税の総額4470万円、軽自動車税等が見込まれますので全体として4500万円余に上るものと考えております。

病院誘致事業の進捗状況

（質問三）自治会加入促進

本市において自治会加入率は、平成26年2月1日現在54・89%です。先日の大雪による被害では、市内のいたるところで地域の方が協力し合い、雪かきをしている姿を目にし、改めて地域での顔の見える関係といった、向こう二軒両隣の大切さを実感しました。東日本大震災から間もなく3年が経つ今、少し忘れがちになつていたことを今回の大雪災害で思い返されたのは、私だけではないと思います。自助・共助、といった自治会の必要性、地域の結束を再認識したことだと思います。

毎年3月においては転入・転出者が最も多い時期と言われており、市自連の方が庁舎1階にて促進活動をしている光景を目にしますが、自治会加入は任意とはいえる自治会の果たす役割、市政への市民参加を進めまちづくりにとつても不可欠と考えます。市として市民参加を促すためには、職員の方が市民とともに歩む姿勢が一層求められると考えます。市長の考えをお聞かせください。また、把握は難しいかもしれませんが任意とはいえる市民の方に自治会加入を求めるならば、職員の方が率先し自治会に加入すべきと考

地区自治会連合会名称	加入世帯数	地区世帯数 (A)	加入率	(A)の字詳細
新田宿・四ツ谷	1,271	2,050	62.00%	新田宿、四ツ谷
座間	1,401	2,063	67.91%	座間
入谷第一・第二	4,856	8,444	57.51%	入谷、明王
立野台	1,289	2,110	61.09%	立野台
緑ヶ丘	1,461	3,634	40.20%	緑ヶ丘
相武台	3,623	6,728	53.85%	相武台、広野台、栗原
相模が丘	6,108	11,171	54.68%	相模が丘
小松原	1,336	1,994	67.00%	小松原
ひばりが丘	3,053	6,241	48.92%	ひばりが丘
東原・さがみ野	2,104	4,654	45.21%	東原、さがみ野
栗原中央・西栗原	2,206	3,349	65.87%	栗原中央、西栗原
南栗原	1,763	3,071	57.41%	南栗原
計	30,471	55,509	54.89%	

座間市の地区別の自治会加入率について(H.26.2.1現在)

(質問四) 防災教育

昨年12月に市内の小・中学校を対象とし、約30名がジユニア防災検定を受講しました。また、防災座間を目指す試みとして、本年度においては座間小学校がモデル校となり、6年生が総合の時間を活用し、防災教育を始め、ジユニア防災検定、更に市内の小・中学校一斉引き取り訓練の実施予定とのことであり、子どもたちが防災に対し深い関心、意識を高める上でも非常によい授業であると思われます。中学生に於いては災害時などには大人より冷静な判断が取れるとも言われております。そこで、防災検定受講に於いての教育長の所見、また、西中学校では約9年前より防災体験訓練が行われておりますがどのように評価され、他

でも多くの職員が率先して加入すべきであると強く望むものでございますし、そうした思いを云えます。

職員が地域に戻った時に、その地域に住む職員ということよりは、その地域を構成する住民の一人、コミュニティを構成する住民の一人として積極的に地域に於いて対応する必要があると思います。地域のコミュニティというものを大切にすることという考え方の中では、これをなすということは職員の自覚として私は当然必要な事であると考えます。地域を構成する一員として、やはり率先垂範でそういう姿を見せ、そのようなな職員が一人でも多くなることを強く望んでおります。また、職員の自治会加入状況は、市内外問わず、回答があつた中の74%で、反対から見れば4分の1が未加入ということであり、正直なところ私は非常に残念に思い、落胆しております。

えますが加入状況並びに今後の職員の方に対し、市長としての考えをお示し下さい。

校でも取り入れるべきと考えますが所見をお聞かせください。
(教育長答弁)

東日本大震災からまる3年を迎えて、被災地では今も約26万7400の方が厳しい避難生活を余儀なくされています。避難生活の長期化による震災関連死は現在も増え続けており、被災地3県で約3千人にものぼります。

ジユニア防災検定は、子供たちが日常から防災と減災に深い関心を持ち、意識を高め、自分で考え判断し行動できる防災力を身につけることを目的としております。今後座間小学校が研究を進めていく中で、子供たちや学校の状況に合い、子供たちの学びや育みの一助となることを期待しております。西中学校では長年にわたって炊き出し、放水訓練などの防災体験訓練を行つており、有事の際には地域に役立つようにしたいという気持ちが育つてゐる生徒も多く災害時の命を守る行動ができる自助、共助としての防災を目的に取り組まっている点が大変すばらしいと考えております。今後、学校、地域の事情を踏まえ、各学校の判断で防災教育を扱う場面を選んでいくことになりますが、西中学校の取り組みを、大いに他校にも伝えまいります。

あの田舎者をすんな心

被災地・被災者の未来の為に、
私達ができる」とはなにか…

1日も早い復興と、もとの生活に戻れる」と
を心から願います。

この国で起きたあの日のことを
心から願います。



ざまを歩こう!! ～シリーズV～

ざまを歩こうシリーズ第5回、今回は神奈川昔話50選に選ばれている座間市に伝わる悲劇的伝説、**桜田伝説**をお話します。皆さんは座間高校の南西にある田んぼの中に小さな標識が立っているのをご存知ですか。昔その辺りは沼地だったそうですが…

現在の鈴鹿明神社の北の位置に渋谷高間という者が住んでおりました。成人し妻子を持ち、生まれた娘を小桜姫と名付けました。しかしその母が亡くなり高間は後妻「まつ」をもらい、もう一人の娘、小柳姫が生まれました。そんな中、高間は突然髪をおろし、諸国修行の旅に出てしまいました。その後まつは屋敷を思い通りにすべく前妻の子小桜姫を殺し“やのふけ”(谷の深と書き、座間高校のあたりにあった深い淵のこと)に沈めてしまいました。このことを知った妹の小柳姫は「ああ、なんてひどいお母様なの。この事を父上が知ったら母はもちろん私も憎まれることでしょう」と嘆き悲しみやのふけに身を投じて死んでしまいました。この一部始終を知った村の人は怒り、相模川に土手を作る際まつを人柱(建造物が破壊されないようにと生きた人間を土に埋め神に祈願する風習)に選びました。まつは罪を償うべく人柱となり長く村人の生活を守ったそうです。それから数年、旅から戻った高間は妻も娘も失ったことを知り、寺を建て(現在の龍源院の縁起といわれています)三人の冥福を祈ったということです。

※詳しくは座間市ホームページより
市政・まちづくり※座間市議会※
インターネット中継をご覧下さい。